

I 海外で活躍するOB（水府倶楽部会員）からの応援メッセージ

◇ 野球から世界を識る ◇

多田 健 (S63 年卒)

1 現在の仕事

現在私は、日本の企業の輸出・海外投資をファイナンスで支援する、国際協力銀行(JBIC)メキシコシティ事務所で首席駐在員の職にあります。メキシコ以外では、中米、キューバも管轄となります。留学、最初の駐在員、本店での担当、今回の駐在(2014年10月～現在)で、合計約10年に亘りメキシコと関わってきております。その間に、ブラジル、アルゼンチン等も担当しました。また、ロシアのサハリンIIプロジェクトを担当し、プーチンの影を感じつつ電話を盗聴されながら業務を進めたこともありました(このあたりのことは、黒木亮のビジネス小説「エネルギー」をご覧ください。私も出てきます)。



元々、メキシコでの日本企業の進出は、1960年代から電力セクターが中心でした。日立、三菱重工、東芝といった日本メーカーは、発電機、タービン等の機器をメキシコ国営電力会社に多数納入し、80年代にはメキシコ全体の発電容量の70%は日本メーカーによるものであり、JBICがファイナンスでサポートしてきました。日立市の工場で作られた発電関連機器も多数納入されております。

現在のメキシコは、世界最大のマーケットであるアメリカをターゲットにした自動車セクターの進出が非常に盛んで、日産、マツダ、ホンダ、トヨタがここ数年で進出、進出決定をしております。それに伴い、部品等のサプライヤーも数多く進出しており、常陸大宮市に主力工場を持つ大川精螺もメキシコに工場進出しており、その為の資金を三の丸倶楽部の鬼沢会長が頭取を務めた常陽銀行と協力してJBICもファイナンスしております。

石油セクターでは、鉱区権益を80年振りに外資に開放し、これに日本企業も関心を示しており、年末には落札者が決定します。原油の日本への輸出も再開されており、JBICもメキシコ政府、国営石油会社に働きかけを実施しております。



中米パナマでは、6月の末にJBICが融資する、パナマ運河拡張プロジェクトの開通式が実施されました。バララ大統領の招待で、開通式典にも参加しましたが、案件発掘、融資承諾、完工迄約16年に亘り関わってきたもので、思い出深いものとなりました。

2 現役時代の思い出

3年生の春季大会でベスト16が最高でした。準々決勝で佐竹高校に負けたのですが、勝っていればベスト8で常総学院と当たることになっておりました。佐竹高校の当時の監督は、後に水戸商、水城高校で甲子園に出場した故橋本監督であったことは後々知ったことでした。その夏の茨城大会は二回戦で藤代高校に9回逆転を許し負けてしまいました。ちょうど私たちが3年生のときは、常総学院が初めて甲子園に出場し、準優勝した年でもありました。直後の夏の甲子園で準優勝したので何とか試合をしたかったなど、今でも思います。

私たちの時代は、橋本県知事と同級生の故田山監督でしたが、部員数も1学年10人程度であったこともあり、厳しい中にも非常に愛情を持って接してくれたと思います。人生の師として様々なことを相談したかったのですが、残念ながら私の最初のメキシコ駐在中に他界されました。

3 メキシコの野球事情

野球の母国アメリカに陸続きで接していることもあり、メキシコも野球は盛んです。TVではメジャーリーグの中継と同時にメキシカンリーグ中継が毎晩あります。メキシカンリーグは、全国に16チームあり、メジャーリーグからは正式に3Aとして認定されており、多くの選手がメジャーリーグを目

指しプレーしております。そのため、日本のプロ野球ほど労働条件は恵まれておらず、宿泊と食事が保証されている以外は、出場・活躍次第の歩合制となっております。野球はメジャーの野球がそのまま入ってきており、豪快な打ち勝つ野球が主体の野球です。守備はエラーもですが、肩が非常に強く、バッティングは豪快でホームランが数多くでるのが特徴です。メキシコ人のみならず、ベネズエラ、キューバ、ドミニカ等の選手も数多く参加しており、メジャー落ちの選手もちらほら見かけます。

アマチュアをみてみると、大体地域のクラブチーム（リーグ）に入ってプレーするのが通常です。メキシコシティにも7つのリーグがあり、その中で、年代別に、7才から21才迄のカテゴリーに分かれ、複数のチームを編成して活動しております。サッカーに比べると道具にお金もかかるし（約年間5万円の会費）、メキシコでは野球はサッカーに比し少々生活レベルの高い人がやるスポーツのように見えます。リーグのグラウンドは、内外野が芝で、手入れも住み込みのグラウンドキーパーが行っており、選手はグラウンド整備をしません。そのせいか、グラウンドにペットボトル等のゴミが散乱していることも多く、水戸一高野球部OBとしては、受け入れ難い状況で、道具に対しても、雑な扱いで、バット、ヘルメットは投げつけるは、見るに堪えないこともあります。

4 後輩部員へのメッセージ

少々大げさに言えば、現在の自分があるのは水戸一高野球部に居たからにほかなりません。

全国の他の高校の野球部のことを聞くと、水戸一高野球部は、全国的にも非常に素晴らしい野球部であることに気が付きます。歴史、伝統、品格、指導、



知名度、周囲の期待、組織力、総合的にみて他校で勝つところはあります。ここでプレーできることに、喜びと誇りを持って過ごして欲しいと思います。

高校野球ができる時間は非常に限られております。実質2年4ヶ月程度であり、人生全体のなかでは非常に短い期間です。しかしながら、非常に価値ある時間です。その時間のなかでは様々なことがあると思いますが、悩み、苦しみ、喜び、そしてそれを分かち合って貰いたい。この短い時間に悔いを残さないで貰いたいと思います。試合の結果ではなく、それに至るプロセスにおいて後悔しないように取り組んで貰いたいと思います。

◇ 大空からのエール ◇

小室 翔太 (H17年卒)

この度は、メッセージの依頼を受けまして、当時を振り返り、現在の仕事にも活かした経験について少し書かせていただきます。

私の略歴を紹介いたしますと、筑波大学工学システム学類に進学し、同大学院を卒業。全日本空輸に入社し、約4年間の訓練を経て、B777（ボーイングトリプルセブン）の副操縦士として飛行機の操縦をしています。B777は長距離路線の主力機であり、現在は国内線とワシントンを始めとした北米の国際線を担当しています。今後はアジア、ヨーロッパの路線資格を取り、運航できる路線を拡大していくこととなります。

さて、当時を振り返りますと、目標の甲子園には至りませんでした。春夏ともにベスト16という成績でした。格上相手にも、相手を分析しチーム力で戦うことにより勝利したときの事は今でも忘れません。また、関西遠征などOB・OGはじめ、父母の方々にも支えられ充実した環境の中で野球が出来ました。自身の事を思うと、なかなか結果に結びつかず、悩むことが多かったです。

3年生になり、自分の練習だけでなくチームのために行動する時間も多くなりました。それがチームの成績に繋がると思ったからです。当時は悔しい気持ちと、結果が出せず半ばあきらめたような気持ちも正直ありました。ところが、そのように自分の練習以外の事にも目を向けていると、意図せず自身の調子が良くなっていったことを覚えています。この経験は今でも活かしています。

入社の際に言われた印象的な言葉があります。「同期に競争はなく、必要なことは協力」。訓練では約1割が不適合となり、パイロットの道が絶たれてしまいます。過酷な訓練の中、落ちるかもしれない恐怖を抱え、協力し合うことは簡単なことではありません。しかし、この時も一人で勉強するよりも、同期と話し合う時間が多い方が訓練も上手くいきました。

チーム、個々の力を最大限に引き出すためには「持てるリソースを惜しみなく提供し、相手のリソースも活用する」ことが、重要なのだと今になって思います。言葉にしたら当たり前の事のように、仲間のために行動することは、決して犠牲や見返り



を求めるのではなく、結果として自身含めチームが成長するために最も必要なことなのだと思います。

最後になりましたが、今でも夏が来るたびに現役野球部員の結果を楽しみにしています。きっと多

くのOB・OGの方々もそうだと思います。何年経過しても応援したくなる野球部の魅力は、現役の皆さんの直向な姿があるからこそです。今後の活躍を期待しています。

◇ 異分野を目指した契機 ◇

橋本 大輔 (H23 年卒)

私は東京芸術大学大学院に在学中で、油彩によるリアリズム絵画表現を専門とし、理論研究・実技制作の双方を行っています。また、現在独立美術協会準会員であり、昨年の第 83 回独立展では大賞である独立賞を受賞しました。その他各種コンクールに出品しています。昨年の第 17 回雪梁舎フィレンツェ大賞展では、フィレンツェ美術アカデミア賞を受賞し、副賞で一か月のフィレンツェ研修の機会を得、今年 2 月から 3 月にかけてイタリアに滞在しました。



イタリア滞在時には、美術アカデミアの授業に実際に出席し、実技制作や講義の聴講を行いました。また、2 月末の修了作品・論文発表会の時期と重なったため、そちらも見学させていただくことができました。アカデミアの授業が無い時には、フィレンツェ市内の美術館や建造物を自由に見学することができ、フィレンツェ以外にもローマ、ヴェネツィア、ミラノ等のイタリア国内の他の都市や、パリ、アントワープ等の国外の都市にも足を延ばし、様々な作品に直に触れることで大いに刺激を受け、作家として大変有意義な経験を積むことができました。

私が画家を志望した動機は、大きくは 2 つありま

す。まず、私は絵を描くことが好きであり、見ること・描くことを生涯追及することで、自身の生きる世界をより深く知覚したいという意志があったことです。次に、水戸一校野球部での経験と出会いがその想いを後押ししてくれたことです。当時の中山監督のもと、チーム一丸となって、自身のやるべきことを「尋常でなく」「徹底」し、「渾身・渾心」の取り組みをするという姿勢は、私にとってそのまま芸術への志向につながるものでした。また、野球部顧問であり美術教員、作家である町田博文先生にご指導をいただいたということが私の基盤になっており、大変有り難いことでした。野球部関係者の皆様にはこの場を借りてお礼を申し上げます。

芸術の分野では、「続けることが大切だ」と言われます。作品を作り続けること、自身の表現を更新し続



けること、それらを世に問い続けることは、大変に難しいことであり、並大抵ではできません。私はまだこの分野での駆け出しに過ぎず、今後自身の表現を追求し、より深化させていく必要があります。10 年後、20 年後のみならず、生涯現役で絵を描き続け、活躍の場を世界に広げられるよう、今後とも精進していきます。

練習試合 基礎練習 点描



Ⅱ 第98回 全国高等学校野球選手権 茨城大会 観戦記

市村 邦夫 (H27年度硬式野球部父母会会長)

三の丸倶楽部の皆様、この度は第98回全国高校野球選手権茨城大会におきまして、多数の応援をいただきありがとうございました。結果は二回戦敗退となり、皆様のご期待に応えられませんでした。選手たちは精一杯頑張ったと思います。

2年前の1年生大会では、初戦水農戦で15対8と大敗を喫してしまいました。2年生のジュニア杯・秋季大会では1点差負けで県大会には出場できませんでした。いずれも大事な場面で打たれたり、エラーが出たりして課題の残る敗戦でした。

そういった多くの課題を克服するために、2年生の冬のトレーニングでは、下半身の強化、基本のキャッチボールの徹底、冬場明けの岡山遠征の合宿では技術の確認とチームワークの向上を図ったと聞いています。日々の練習の結果、3年生になってからの練習試合では、安定した捕球・スローイング、打球の速さ、飛距離の伸びなど、着実にチームの成長が感じられました。

そして、夏の大会本番。対高萩清松戦では、攻撃面でも守備面でもそれまでの中で最高の試合となりました。打撃では、ツーアウトになってからの得点場面が数多く見られました。また、古川君のあわやノーヒット・ノーランかと期待させる素晴らしい力投にわくわくさせられました。水戸一野球部がこの一年間チームのテーマとして掲げてきた「粒々辛苦」の如く、これまでの努力が結果となって実を結んだ一戦でした。

そして二回戦対霞ヶ浦戦。スコアボードに0が並ぶ緊張の中で、無失策という守備面が光りました。結果は、3-0という惜敗となり、今年も強豪私立の壁を破ることはできませんでしたが、「努力は嘘をつかない」ということを実感させてくれた素晴らしい試合でした。

チームのスタート時には課題の多かったこのチームが、ここまで成長することができたのは、毎日一人一人と真剣に向き合い、丁寧にご指導して下さった竹内監督や顧問の先生方、いつも温かい声援で選手を後押しして下さった後援会の皆様のお陰と感謝しております。本当にありがとうございました。

三年生の選手たちが、この高校野球で培った忍耐力・精神力を生かして立派な社会人として成長してくれることを願っています。そして、今後は一会員として、水戸一野球部の甲子園出場が実現されますよう応援していきます。



一回戦 平成28年7月9日(土) 日立市民球場
天候：曇・雨
試合時間：1時間42分(13:28~15:10)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
高萩清松	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水戸一	1	2	1	2	3	0	X			9

バッテリー：古川-早船
三塁打：小柴(4回)、古川(5回)
二塁打：金子(3回)
単塁打：内桶2(1回、5回)、皆藤(1回)、小柴(1回)、
幡谷2(2回、6回)、古川2(2回、4回)、金子(6回)

出場メンバー

1番	センター	山口	(3年)
	4回代走	佐藤	(3年)
2番	ピッチャー	古川	(3年)
3番	ライト	内桶	(2年)
	6回センター	川田	(2年)
4番	レフト	皆藤	(3年)
	2回ファースト		
	6回キャッチャー	栗原	(2年)
5番	セカンド	小柴	(2年)
	7回ファースト		
6番	ファースト	鈴木(文)	(3年)
	2回レフト	金子	(3年)
	5回センター		
	6回ライト		
	代走	花田	(3年)
	7回セカンド		
7番	サード	幡谷	(2年)
8番	キャッチャー	早船	(3年)
	5回代打	静岡	(3年)
	6回ファースト		
	7回ライト		
9番	ショート	田中	(2年)



二回戦 平成28年7月13日(水) 水戸市民球場
天候：曇・雨
試合時間：2時間35分(13:52~16:27)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
霞ヶ浦	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3
水戸一	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

バッテリー：市村(～8回2/3)・古川-早船(～8回)・栗原
単塁打：幡谷(5回)、市村(7回)、内桶(9回)

出場メンバー

1番	ショート	古川	(3年)
	8回2/3ピッチャー		
2番	ファースト	皆藤	(3年)
	8回2/3レフト		
3番	ライト	内桶	(2年)
4番	ピッチャー	市村	(3年)
	8回2/3ファースト		
5番	セカンド	小柴	(2年)
	レフト	金子	(3年)
6番	8回2/3ショート	田中	(2年)
7番	サード	幡谷	(2年)
8番	キャッチャー	早船	(3年)
	8回代打	佐藤	(3年)
	9回キャッチャー	栗原	(2年)
9番	センター	山口	(2年)
	6回代走	川田	(2年)
	7回センター		



石井 哲也 (S63 年卒 元NHKアナウンサー
— 現NHK水戸放送局企画
編成部デスク)

初めての投稿になります。というのも昭和63年夏の大会以来29年ぶりの観戦で、世代的には息子たちの活躍を見届ける父親のような気持ちで球場に行きました。

一回戦は日立市民球場。雨模様の中で、同行した同期の船橋くんとも試合が行われるかどうか案じながら球場に到着。昭和63年卒の野球部でない同期2人も合流し、4人での観戦となりました。やはり、試合前はかなり強い雨が降り、1時間程度試合開始が遅れましたが、なんとか試合開始。

水戸一高は後攻め。先発の古川くんは、とにかく制球とテンポが良かった。1回表の高萩清松の攻撃を見て、水戸一高の勝利を確信しました。一方、高萩清松の投手は、上背はあるものの下半身を使えていない手投げのピッチング。一回りすれば攻略できると思いました。結果も7回コールド。まんべんなくヒットも出て、会心のゲームでした。

二回戦は、優勝候補の霞ヶ浦。ひと泡吹かせたいところ。水戸市民球場は、雨まじりの曇り空。今大会、炎天下の試合はありませんでした。先発は、水戸一高はエース市村くん。霞ヶ浦は、背番号9のサウスポー根本くん。序盤は、終始押され気味ながら両チーム無得点で5回裏まで進みます。

今回、試合の明暗を分けたのは、この5回裏といっても過言ではないでしょう。

5回裏先頭市村くんがサードのエラーで出塁。この試合初めてのランナー。喉から手が出るほど先制点がほしい場面。次のバッターが送りバントを決め、1アウト2塁。その後、1アウト2塁1塁となり、バッター7番幡谷くん。幡谷くんは、1、2塁間を抜けるライト前ヒット。そこで、2塁ランナーの市村くんが3塁ストップ。私はその瞬間、ランナ

一を止めたことで流れが止まってしまったと感じました。結果、次のバッターがゲッツーで3者残塁でした。

ここからは、私独自の見解で、異論があるのは承知で書き進めます。ランナーコーチャーの話です。あの場面、2塁ランナーがピッチャーの市村くんといえども回してほしかった。シード校に挑むわが校は、是が非でも先制点を足らなくてはいけない状況です。たとえ、ホームでアウトになっても2アウト2塁1塁でチャンスは続きます。相手はシード校の好投手、そうそうチャンスはありません。それだけに悔いが残りました。

提言として、特に3塁コーチャーは、試合を左右する重要なポジションです。レギュラーと同等のポジションだという認識を持って固定してほしい。でなければ、前の回の最後のバッターが望ましいと思います。経験上、試合に出ている人と出していない人には温度差があります。試合に出ない人は、どうしても消極的になりがちです。ですが、理想は、専門の3塁コーチャーの育成。固定できれば、経験も積めますし、的確な判断ができる優秀なコーチャーになると考えます。

私がアナウンサー時代に実況した明德義塾や高知商、広陵や広島商などは言わずもがなです。県ベスト8以上を狙うなら、今回提言したコーチャーの話だけでなく、積極的かつ隙のない野球を目指してほしいです。

霞ヶ浦は、正直、水戸一高には楽に勝てると思っていたはずですが。それが、5回まで0対0というまさかの展開。そこで、先制点が取れたら、相手が浮足立ち大金星を挙げられたかもしれません。結果は3対0。実力の差はそれほどなかったと思います。また、市村くんは、高校最後の集大成として立派なピッチングでした。28年ぶりの母校の試合、感動を与えていただきました。三の丸倶楽部のみなさま、今後ともよろしく願いいたします。



前会報第16号発行以降(3月~8月)の活動状況について報告します。

(1) 今年度の総会を去る6月5日(日)に知道会館で開催し、会員の皆様へ事前配布しました活動報告、会計報告を承認いただきました。会員拡充策の一環として、今年度は北海道及び東北地区の知道会会員の皆様へ本倶楽部の活動を広報する予定です。また、飯田芳久氏(平成元年卒)の新幹事就任も承認されました。飯田新幹事は総務関係(名簿管理)を担当されます。

(2) 野球部支援として、会費から以下5件について支出をしました。

- ①3月の四国遠征費(一部)
- ②茨城大会必勝祈願玉串料(一部)
- ③茨城大会に向けたユニフォーム2着、バット5本、バットケース購入費
- ④老朽化ベース更新費
- ⑤8月の東北遠征費支援(一部)



いずれも野球部(部長)からの要請に基づき、幹事会で審議承認されたものです。

(3) 公式戦応援では、春季地区大会で鉾田一高に2-3で惜しくも敗れました。夏の茨城大会では一回戦で高萩清松高に9-0で勝利しました。2回戦では0-3で第二シードの霞ヶ浦に0-3で敗れましたが、平日にも拘らず応援帽子を着用した多くの会員の皆様に応援いただきました。

(4) 昨年より運用を始めたホームページでは、会員限定で試合情報を「試合予定」及び「試合結果(詳報)」に載せています。8月20日(土)現在の総アクセス数は約56000回です。

「交流掲示板」も会員交流の場として活用ください。

(5) 本号(第17号)では少し視点を変え、野球とは異なる分野で国際的な活動をされている水府倶楽部会員3氏に寄稿をお願いしました。

国際協力銀行で数々の国際プロジェクトを担当されてきた多田氏(昭和63年卒)、長年の念願叶って全日空の国際線パイロットとして活躍を始めた小室氏(平成17年卒)、新進気鋭の洋画家として注目され、国内三大美術展(独立展)の最高賞を獲得して美術の都フィレンツェへ今年派遣された橋本氏(平成23年卒)です。また、茨城大会の観戦記も視点を変え、水府倶楽部会員でNHKで地方大会を実況中継された経験を持つ石井氏(昭和63年卒)、父母会会長として部員の活躍を見守ってこられた市村氏に寄稿いただきました。

新幹事ごあいさつ 飯田芳久

この度、三の丸倶楽部の幹事を務めることになった飯田と申します。

私は一高のOB(平成元年卒)ですが、現役当時は文化部に所属し、野球に関しては応援専門でした。現在、息子達が3年と1年に在籍しているものの、こちらも2人そろって弓道部と、野球とは直接関わっておりません。

しかしながら、野球自体は息子共々好きであり、夏の大会はほぼ毎年観戦しております。また、グラウンドでプレーする息子の同級生達を目にし、我が子の活躍のように感じております。

微力ではございますが、母校野球部の発展に貢献できれば幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

三の丸倶楽部

顧問：稲葉節生 (S38年卒 元茨城県教育長)
 会長：鬼澤邦夫 (S38年卒 常陽銀行会長 知道会会長)
 事務局長：森 利克 (S38年卒)
 幹事：照沼貞夫 (S47年卒、H20年卒父母会) 池永充宏 (H23、24年卒父母会)
 田村照悟 (S52年卒、H24年卒父母会) 船橋信正 (S63年卒、水府倶楽部)
 飯田芳久 (H元年卒)



<http://sannomaru-club.com>

//////////////////// 会員を募集しています //////////////////////

対象：水府倶楽部(野球部OB会)及び現野球部父母会の会員以外どなたでも入会できます。

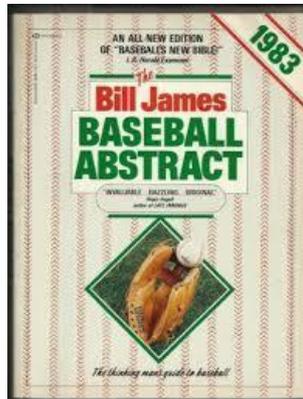
特典：会員帽子(入会時)の配付、会報(年2回)の送付など

年会費：一口 3,000円(何口でも可)

手続き：氏名、住所、TEL番号、メールアドレスを下記までご連絡ください。

連絡先：森利克 TEL/FAX 0294-53-1351 E-mail: ihm2158@ak.wakwak.com

大リーグのテレビ中継を見ていると、打者によって極端な守備シフトが敷かれる場面を見ることがある。打者毎の打球方向のデータを分析し、守備シフトを決めている。アメリカではこのようなデータ分析はかなり昔からなされている。1983年に初めてアメリカに行ったとき、訪問先の会社の方が私の野球好きを知って、「Bill James BASEBALL ABSTRACT」(1983年版)というタイトルのA4版240ページほどの本をくれた。選手のみならず球場の評価まで、種々のデータをもとに評価している興味深い本だった。この本の前書きによれば1983年よりもかなり前から、Bill Jamesの本は出版されていたようだ。



2011年に公開された映画「マネーボール」によって、日本でも大リーグがその運営にデータを分析して成果を得ている球団があることが知られるようになったが、その30年以上前にデータ分析が行われていたと考えてよい。近年になってセンサー、画像分析、ビッグデータといった技術の大きな発展が、第3次人工知能ブームを呼び起こしているが、大リーグもこれらの技術を生かしさらなる進化をしている。マネーボールで紹介されたOPS(長打率+出塁率)は特別な数値ではなく、ファンにも浸透し、日常的に使われている。インフィールドに飛んだ打球(除く本塁打)の安打になる確率=BABIPを、球場内スクリーンで紹介する球団も多い。打球の初速や軌道から判定しているのだろうが、本塁打の飛距離が表示される球場もある。投手の球速のみならず、ボールの回転数や軌道分析まで。更にはストライク、ボールの判定も画像分析システムがして、このデータをもとに、審判の判定を有利に導いている捕手の評価に繋げている球団もある。

資金力に乏しい球団がデータ分析によって、他球団が評価しない年俵の安い選手を集めて成功するという、「マネーボール」のモデルになったのはオークランド・アスレティックスだが、近年ピッツバーグ・パイレーツが長年の不振を脱し観客動員を向上させているのは、GM、監督そして優れたデータ分析者の成果として知られている。今年の大リーグの順位表を見ると、一部の資金力のある球団の低迷と弱小だった球団の活躍が目につくが、データ利用に活路を見出している結果と考えている。

その一方で、選手や監督・コーチの人柄の評価に

もまた大リーグの底力を感じることがある。松井秀喜氏について知ることからその一部を紹介したい。松井選手は2003年ニューヨーク・ヤンキースに入団した。大リーグの打者の手で動くボールに対応できるようになるまでゴロの山を築き、オーナーから「ゴロ・キング」と揶揄されていたころ、松井選手の守備を称賛する記事があった。左翼手として、「捕球した球をどこに投げるか、その判断がいかなる時め的確で素晴らしい」という趣旨の記事だった。

松井の野球選手としての真摯さとセンスとそれを支える人柄を思い感激したが、アメリカのジャーナリズムにも敬意を覚えた記憶がある。

一昨年9月にヤンキースの試合を見る機会があった。開始前に主将デレク・ジーターの引退セレモニーがある試合だった。



当日球場の外から既に興奮気味の観客で溢れ、球場内の盛り上がりは大変なものだった。式の開始とともにヤンキースの錚々たるOBたちが次々と登場し、内野に弧を描くように並べられた白い椅子に座った。前監督のジョー・トーリ、イチローが憧れたバーニー・ウィリアムス、最近の永久欠番の捕手ホルヘ・ポサダとクローザーのマリアノ・リベラたちと共に松井秀喜が参列した。松井がヤンキースファンに愛されていることは前述のようなことも含めて

知ってはいたが、背広姿で内野の芝生を歩く松井に感激した。ヤンキースとジーターが松井の真摯で献身的なプレイを評価し、その人柄に深い敬意を持っていることを実感した。



松井は今年ヤンキースのGM特別補佐に就任している。ヨギ・ベラの後任でレジー・ジャクソンがもう一人の特別補佐である。米国球界において監督、コーチなどのポジションは選手としての実績よりも指導力、マネジメント能力、人格に優れていることが条件になる。名門球団のGM特別補佐という重職に就くには、実績に上記の条件が必須である。この点からも松井氏の人格が評価されていることが分かる。

前述のデータをもとに極端なシフトを敷いた先駆者は、タンパベイとピッツバーグが有名だが、実施に当たっては選手たちが簡単に承服したわけではない。両チームともに名将との評価が高い監督がいて、選手たちがその戦術を理解し納得したから、監督と選手の厚い信頼があったから出来たことである。デー

タを生かす最先端の戦術も、人間力があって初めて実行され成果が上げられるのである。

高校野球においてはこれほどの大量データの活用などは考えられないが、人間力が大いにものを言うことは確かである。運動能力や技量に増して、真摯なプレイこそが魅力であり神髄である。場面場面で自分のなすべきことをしっかりと考え、準備し、着実に成し遂げることが、チームの勝利に必須であろう。母校の試合を観戦するたびに、選手たちの真摯な振る舞いが美しく見え、勝敗を超えて選手の姿・動きを見るだけでいつも幸せを感じる。

練習に励み力を蓄える中で、人間力を増し、全国大会出場の夢へ向けて成長していくことを心から祈っている。

(入魂第18号に続く)

V 硬式野球部 名簿

(敬称略)

部長 小島 淳 監督 竹内 達郎

顧問 武士 敬一 太田 泰助

チーム紹介 「日々革命」

主将 馬場 達哉

「3」これは私達にとって、とても意味を持った数字です。昨年の夏、明秀日立高校戦での0-3。今年の夏、霞ヶ浦高校戦での0-3。そして、水戸一高が甲子園に行った回数、3回。私達には、この「3」という数字を変える、または越えなければいけない使命があると思っています。

そこで、私達が目指しているものは、強豪私学校との壁を壊し、打ち勝てるチームです。新チームが始まった早々の東北遠征では、名だたる強豪私学校と練習試合をしましたが、私達と強豪校との一番大きな差は、「何としてでも甲子園に行く」という覚悟でした。

そこで、今年のチームテーマを「日々革命」としました。覚悟や取り組み方、練習方法など全てを一

から見直し、私達の手で変えていき、勝つためのチームづくりをしていきます。

今年のチームは、中学校時代での選抜経験者や、シニア経験者がいません。いわゆる、「タレント」がいないチームです。しかし、誰もがリーダーシップを持ち、「元気」と「ガッツ」があり、明るく人間力が売りのチームです。個人の力だけでは勝てませんが、組織力で勝利を目指します。

「勝つ」ということは、簡単な事ではありません。そのためには、凄絶な努力を重ね、犠牲を厭わない覚悟が必要です。今しかできない高校野球に全てを捧げ、チーム目標である「四度目の甲子園出場」を果たします。応援よろしくお願いたします。

硬式野球部 名簿

(敬称略)

二年生



馬場 達哉
水戸二中
主将・内野手



内桶 達史
友部中
捕手・外野手



内野 汰一
城里常北中
内野手



大賀 悠生
泉丘中
外野手



加藤 優作
城里常北中
外野手・内野手



川田 尚輝
水戸三中
外野手・内野手



栗原 幸太郎
水戸四中
捕手・内野手



香西 健匠
茨大附属中
投手



小柴 鴻士郎
茨大附属中
内野手



島 凌外
東海南中
内野手



田中 希
水戸一中
内野手



常井 直樹
友部二中
投手・内野手



飛田 怜央奈
太田中
投手・内野手



中村 祐斗
瑞竜中
マネージャー



萩谷 大智
笠原中
外野手



幡谷 寛朗
茨大附属中
副将・投手・内野手



深田 皓太
大島中
内野手



折橋 桃子
佐野中
マネージャー

一年生



岡田 隆佑
勝田一中
捕手・内野手



金澤 正太
生瀬中
投手



鈴木 健拓
那珂一中
内野手



関山 風野
水戸一中
外野手



武士 新一郎
東海南中
外野手



照井 貫太
水戸二中
捕手



廣江 敏也
大島中
外野手



松尾 俊吾
茨城大附属中
外野手



米川 亮輔
旭中
外野手



渡辺 勸太郎
石川中
内野手



菅沢 和花
那珂湊中
マネージャー

Ⅵ 試合結果・予定

平成28年度前半公式戦・準公式戦結果

月	日	大会	球場	結果
1月	2日	豚汁会	水戸一	○9-4 水府倶楽部
4月	16日	春季地区一回戦	水戸市民	●2-3 鉾田一
6月	3日	市内	水城高	○8-7 茨城
	5日	〃	〃	●2-5 水城
7月	9日	茨城大会一回戦	日立市民	○9-0 高萩清松(7回)
	13日	茨城大会二回戦	水戸市民	●0-3 霞ヶ浦

以下新チーム

8月	18日	ジュニア一回戦	鹿島高	○20-0 常北
	19日	ジュニア二回戦	〃	○6-0 鹿島
	24日	ジュニア準々決勝	葵陵高	●1-2 波崎柳川 (延長10回)

平成28年度前半練習試合結果

月	日	場所	結果
3月	12日	波崎柳川	○10-6 清真 ●4-5 波崎柳川
	19日	今治西	●3-8 今治西 愛媛県立
	20日	玉野光南	△4-4 北嵯峨 京都府立
			●1-7 玉野光南 岡山県立
	21日	川之江	●2-4 川之江 愛媛県立
	23日	常総学院	●1-2 取手二
			●1-9 常総学院 7回終了
			●2-3 〃
	26日	水戸一	○3-2 安積 福島県立
			●4-7 〃
	28日	水戸一	●3-1 8新津 新潟県立
			○3-0 横手 秋田県立
	30日	水海道一	●2-6 水海道一
			●2-3 〃
			○5-4 〃
	31日	水戸一	●1-5 弘前 青森県立
			○5-4 帝京長岡
4月	2日	水戸一	○6-4 群馬中央中等
			●2-1 2 〃
	5日	取手松陽	●1-7 取手松陽
			●2-6 〃
	9日	石岡一	●0-5 石岡一
			●0-1 5 〃 5回終了
4月	10日	牛久	○12-4 牛久
			○4-1 〃
		牛久栄進	○4-1 牛久栄進
			●4-5 〃
	23日	勝田	●6-9 勝田
5月	1日	勝田工	○10-6 茨城高専
			○12-1 勝田工
	5日	宇都宮	△10-1 0 宇都宮
			△7-7 〃
	7日	中央	○2-1 中央
			●6-7 〃
	8日	土浦一	●2-5 土浦一
			●11-1 3 小山 栃木県立
	15日	緑岡	△1-1 緑岡
			●1-8 〃
	22日	取手二	○2-0 取手二
			○12-2 〃
	29日	土浦一	○13-9 成徳 東京
			○9-7 土浦一
6月	12日	水戸一	○4-1 佐原 千葉県立
			○8-4 〃
		高萩清松	○11-2 竜ヶ崎南
			●4-8 高萩清松
	18日	那珂湊	△6-6 日立商
			○14-5 那珂湊
	27日	桐生市民	○3-2 桐生 群馬県立
			●2-3 〃
7月	2日	桐生工	●0-3 桐生工 Aチーム
			●2-4 〃
		水戸一	●6-7 日立一 Bチーム
			●6-8 〃
	3日	水海道一	●5-9 水海道一
			●2-5 〃

新チーム 平成28年度前半練習試合結果

月	日	場所	結果
7月	31日	鉾田二	●5-7 鉾田二
8月	3日	水戸一	○8-6 土浦二 8回表豪雨中止
	5日	水戸一	●6-7 綾瀬 神奈川県立
			○8-7 〃
	6日	仙台育英	●0-1 8 仙台育英 東北遠征 1日目
			●0-1 5 〃
8月	7日	花巻東	●1-9 花巻東 東北遠征 2日目
			●4-5 〃
	10日	岩木山運動公園	○10-8 弘前 東北遠征 5日目
			△6-6 柏木農
	12日	水海道球場	○3-1 水海道二
			△2-2 〃
	13日	慶応	●3-2 慶応
			●0-1 5 〃
	16日	しらすわぐりスタジアム	○5-3 安積 福島県立
			△8-8 〃

平成28年度後半試合予定 (平成28年8月19日現在)

月	日(曜)	大会・対戦校・会場等 (V: 相手高G, H: 水戸一G)
9月	4日(日)	練習試合 対勝田工 (V)
	5日(月)	秋季大会水戸地区予選組合せ抽選会
	8日(木)	秋季大会水戸地区予選 (~9/13)
	16日(金)	秋季県大会組合せ抽選会
	22日(木)	秋季県大会 (~10/2)
10月	2日(日)	練習試合 対柏中央 (V)
	13日(木)	木内杯
	16日(日)	練習試合 対千葉敬愛学園 (V)
	22日(土)	秋季関東大会 (~10/30) 水戸地区一年生大会
11月	3日(祝)	練習試合 対那珂高 (V) 菊池杯 (土浦一高関係者交流戦)
	12日(土)	水商定期戦
	13日(日)	練習試合 対中央高 (V)
1月	2日(月)	水府倶楽部定期戦/豚汁会 (H)
3月	11日(土)	練習試合解禁日

※試合予定は三の丸倶楽部ホームページでご確認ください。

編集後記

この夏の甲子園で、東邦高校が対八戸学院光星高校戦で9回裏に4点差をひっくり返して勝利しました。これは5xの奇跡として注目を浴びましたし、「あきらめない高校野球」の手本として、永く語り継がれるでしょう。一方で敗れた光星ナインはといえば、点差に油断した訳でもないでしょうに5xを喰らった高校として記憶されてしまいました。いわゆる負の伝説です。これを払拭するには、また甲子園に出て来て、しかも勝つしかなさそうです。なんとか実現して欲しいものだと思います。

さて、リオのオリンピックも終わりました。男子400Mリレーに熱くなった方も多いのではないのでしょうか。日本チームに100Mのファイナリストは1人もいませんでした。たとえ個々の力は及ばなくとも、チーム力や連携プレーで見事銀メダルを獲得しました。このあたりに、一高野球部勝利へのヒントがあるような気がします。